

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 水島エコワークス株式会社	住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒712-8074 倉敷市水島川崎通一丁目14番5
----	-----------------------------	----	---

本票作成 部署名：水島エコワークス株式会社 技術部

主たる業種	分類コード	88	業種名：廃棄物処理業
-------	-------	----	------------

事業の概要 倉敷市の一般廃棄物及び、水島コンビナート地区をはじめ、岡山県内を主体とした産業廃棄物をガス化熔融処理する廃棄物処理施設であり、廃棄物より副生された精製合成ガスは近隣コンビナート企業に販売している。

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	水島エコワークス株式会社	倉敷市水島川崎通一丁目14番5

特定事業者の該当要件 ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 ③CO₂換算3,000t以上
(●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 21 年度)	(平成 25)年度排出量	目標年度(平成 26 年度)
	29,676 t CO ₂	33,316 t CO ₂	29,676 t CO ₂

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 25)年度排出量
	①	水島エコワークス株式会社	33,316 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成 22 年度 ～ 平成 26 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(25) 年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 12.6 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 エネルギー使用量(温室効果ガス排出量)と密接な関係がある「ごみ処理量」を原単位とする(温室効果ガス排出量÷ごみ処理量)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(25) 年度	目標年度
		212.3 t CO ₂ /(千t)	239.0 t CO ₂ /(千t)	201.7 t CO ₂ /(千t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 25 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

・H25年度は、基準年度比で△12.6%となった。主な理由は、
 ①焼却炉の耐火物更新、
 ②LNGバーナーの適正流量制御と個別コントロールにより、燃料の液化天然ガス(LNG)の使用量を基準年比32%減少させることが出来たものの、
 ③電力のCO₂排出係数が0.000628⇒0.000738と18%増となったことによる。
 ・CO₂排出量に大きく関わる精製ガスの放散量も基準年と大差ないまで減少し維持している。引き続き、精製合成ガスの回収に努め、放散量の減少に努めると共に、LNG使用量の削減を含めた省エネ活動を継続する。

【推進体制】

省エネルギー法に基づくエネルギー管理規程（平成19年4月2日制定、平成23年4月20日改定）および、環境マネジメントシステム「ISO-14001」認証（平成20年3月13日取得、平成26年3月9日更新）他、各種会議体において推進体制を確立している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
	<p>(平成25年度実施分)</p> <p>【実施した措置】 平成17年4月の操業開始以降、「安定操業」「LNG使用量の削減」「電力使用量の削減」「耐火物補修の適正管理により、焼却炉の経年的な炉対耐火物の損傷により放熱の改善」等に継続的に取り組んでおり、その結果、直近5年度間のエネルギー平均原単位変化は96.0%と引き続き改善が継続されている。CO2の排出原単位は、燃料使用量の減少（前年度比11.5%減）、精製合成ガスの放散量（前年度比40%減）の抑制、廃プラスチック類の処理量の適正化による炉内外のシール用蒸気使用量の削減（前年度比10.9%減）により改善されているもの、購入電力のCO2排出係数の悪化（基準年に対し17.5%増）により削減目標は未達となった。継続的な省エネ活動と精製合成ガスの放散量の抑制に努めていくものとします。</p> <p>【今後の取組み】 継続分を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LNGバーナー流量制御の適正維持と個別流量コントロールの継続実施（H24年度～26年度） ・炉耐熱負荷管理による耐火物補修の定期実施の傾向管理とその成果反映（H24年度～26年度） ・照明の節電とエレベーターの使用減による電力削減（継続） ・精製合成ガスの回収率の更なる向上（H24年度～H26年度）（H26年度～）

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

当社の温室効果ガス排出量は、省エネ法での排出量と温対法での廃棄物由来排出量及び、県条例による車両関係排出量である。

但し、廃棄物焼却に伴うガスは一部を除き大気へ排出することなく、改質したのち、精製合成ガスとしてコンビナート企業へ配管により直接送気しているため、温対法上の温室効果ガスはほぼゼロとなっている。

従って、環境に配慮した施設であり、他の一般的な焼却炉での燃焼後排熱回収を行なった後、煙突から温室効果ガスを大気排出する施設とは異なっている。